

佐賀県のユニバーサルデザイン 教育の取り組み



優・YOU・湯

～まんなかにあなたがいます。佐賀のユニバーサルデザイン～

佐賀県におけるユニバーサルデザイン教育の取り組み

1 学校教育におけるユニバーサルデザイン教育について

佐賀県教育委員会では、当該年度の教育方針を「佐賀県教育の基本方針」として取りまとめ、それに沿った施策に取り組んでいます。平成19年度から「ユニバーサルデザイン教育の推進」を「佐賀県教育の基本方針」に盛り込み、学校教育におけるユニバーサルデザイン教育を推進しています。

(参考) 平成22年度佐賀県教育の基本方針 (抜粋)

基本戦略Ⅰ 「生きる力」を育む教育の推進

Ⅰ-2 豊かな心を育む教育の推進

主な取組④ 発達段階に応じた心の教育や体験活動の推進

<現状と課題>

- 「生きる力」の礎ともいえる、生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、美しいものや自然に感動する心など、豊かな人間性を育むための心の教育の充実を図っていくことが重要な課題となっています。
- また、子どもたちを取り巻く社会環境が急激に変化し、間接体験や疑似体験が増加することに伴う弊害や課題の指摘がなされています。
- そのため、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を家庭や地域と連携して実施したり、子どもの発達段階に応じた自然体験や集団宿泊体験、職場体験などの体験活動を実施することで、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育む必要があります。
- あわせて、子どもたちの発達段階に応じ、人権に関する正しい知識や人権感覚を身につけさせる必要があります。

<取組方針>

◇ユニバーサルデザイン教育の推進

- ・ 総合的な学習の時間や道徳、特別活動の時間、家庭科等の教科において、ユニバーサルデザイン(一般に「UD」と表記。)の視点に立って、交流教育や高齢者疑似体験、バリアフリーに関する教育などの充実を図ることで、児童生徒のUDについての理解を深めるとともに、相手を尊重する心や思いやりの心を育むことを目指し、UD教育を推進します。

学習指導要領において「ユニバーサルデザイン」についての明確な位置付けはなされていませんが、佐賀県教育委員会では、年齢・性別・能力・障害のあるなし・国籍などによる違いを認めあうユニバーサルデザインについての考え方を、各学校の実情や特性に応じて取り入れることを推奨しています。

このようなユニバーサルデザイン教育を通して、未来を担う子どもたちが、多様な個性や違いを理解して、当たり前ものとして身につけること、相手を尊重する意識や思いやりの心を育むことを目指しています。

2 ユニバーサルデザイン教育の推進について

佐賀県教育委員会では、全ての教職員に対し、ユニバーサルデザイン教育について理解を深めることを目的に、平成21年度・平成22年度にリーフレット「学校教育におけるユニバーサルデザイン（UD）教育の推進」を作成し、配布しています。

また、平成21年度から小学校・中学校・県立学校に「ユニバーサルデザイン教育推進校」を指定し、推進校での実践をホームページ等で紹介することにより、学校教育におけるユニバーサルデザイン教育の一層の普及啓発を図っています。

3 各学校における具体的なユニバーサルデザイン教育の取組

ユニバーサルデザイン教育は既定の教育モデルがあるものではありません。学校では、児童生徒の発達段階や学校の実情や特性等に応じ、創意工夫されたユニバーサルデザイン教育の取組を行っています。

これまでに報告されたユニバーサルデザイン教育推進校等の具体的事例の中から、ユニバーサルデザイン教育に関する4つのアプローチについてご紹介します。

- (1) 障害者、高齢者の疑似体験、講話
 - ・ 疑似体験装具などを使って障害者や高齢者の体験をする。
 - ・ 障害者、高齢者、子育て中の方（妊婦のときの体験談も含む）などに、日常生活や移動する際に困ったことなどについて具体的に話を聞く。
- (2) ユニバーサルデザインを取り入れた製品の使用体験、アイデア考案
 - ・ 左右両用の文具や手の力が弱くても持ちやすい食器などを実際に扱って体験する。
 - ・ ユニバーサルデザインを取り入れた製品・建物・道路などのアイデアを、自分たちで考える。
- (3) まちや建物の中のユニバーサルデザイン調査・発見、みんなが住みやすいまちづくりの提案
 - ・ 学校や店舗、公園、道路などを調査して、いろいろな立場の人の視点から見直して、使いにくいところや多くの人を使いやすいよう工夫されたところを発見する。
 - ・ 自分たちの住むまちの学校や店舗、公園、道路などで、どういうところを変えれば、もっと多くの人に住みやすくなるかを、自分たちで考える。
 - ・ その結果を保護者や地域の人、地元の市町長などに報告する。
- (4) 紙芝居やかかるたを使ったユニバーサルデザインの啓発活動
 - ・ ユニバーサルデザインの紙芝居やかかるたをつくり、小・中学生などに啓発活動を行う。

4 平成21年度ユニバーサルデザイン教育推進校の取組事例 | 佐賀市立赤松小学校 3年生（100名）

- (1) 取組のねらい
 - 自分たちが住んでいる地域の「やさしさ（ユニバーサルデザイン）」について調べたりしたことを人々に知らせることで、赤松町のよさを感じることができる。
- (2) 取組の実際
 - ① 町の中のやさしさを見つけよう（町探検）
 - 公共施設が多い赤松町。1学期の町探検では、人が集まる施設について調べ、2学期は「町のやさしさを見つけよう」というテーマで学習を進めた。町探検では、車いすマークの駐車場、バス停のベンチ

や屋根、車いすの人も使えるトイレ、公民館や美術館のスロープなどたくさんのやさしさを見つけ、疑問も生まれた。

② 車いす・お年寄り疑似体験、アイマスク体験をしよう

町探検で、車いすマークや点字ブロックを発見したことをきっかけに、車いす・お年寄り疑似体験、アイマスク体験を行った。クローバーの会（※）の方に指導をしていただき、車いすの乗り方や介助の仕方、おもりや曇った眼鏡をつけた作業を行った。子どもたちは、実際に体験したことで不自由さや怖さを実感していた。



※クローバーの会・・・社会福祉協議会から派遣された福祉体験指導者の方々

③ ユニバーサルデザインについて知ろう

県地域福祉課の方に来ていただき、町の様子（駅や様々な施設、駐車場、絵文字など）やユニバーサルデザインの食器など、写真や実物を交えながら話をしていただいた。見たことがある物や初めて見る物、初めて聞く言葉などもあり、とても興味深く話に聞き入っていた。町のユニバーサルデザインについてもっと知りたい、調べてみたいという意欲をもつことができた。



④ 町のユニバーサルデザインを見つけよう

子どもたちが興味をもった学校や公民館のユニバーサルデザイン、トイレ・駐車場・絵文字・自動販売機・盲人信号・点字ブロックのグループに分かれ、町のユニバーサルデザインについて調べる計画を立てて詳しく調べていった。地図にユニバーサルデザインの駐車場や点字ブロックがある場所を記したり、実際に車いすに乗ってその便利さや不便さを体験したりして、それぞれの課題について調べた。



⑤ 調べたことをまとめよう

調べたことを学校公開で発表することを話し、たくさんの方に聞いていただくという目的意識をもたせて取り組ませた。広用紙や紙しばい、ペープサートなど、自分たちの表現しやすい表現方法でまとめることができた。地図にまとめていく中で、「なぜ盲人用信号は少ないのか?」「点字ブロックの形が違うのはなぜ?」とグループで考えるなど、更に深く追究していく様子が見られた。

⑥ 調べたことを発表しよう

学校公開の日に発表し、お世話になったクローバーの会の方や県地域福祉課の方、おうちの方や地域の方に調べたことを聞いていただいた。大きな段ボールで実際にユニバーサルデザインの自動販売機を作ったり、町の点字ブロックの上にゴミがおいてあるなどの困ったことを劇にしたりして表現する工夫も見られた。



⑦ 活動のまとめをしよう

これまでの活動を「できるようになったこと」「自分や友だちの発表から分かったこと」などの観点からふり返った。「今まで意識していなかったユニバーサルデザインを見つけることができるようになった」と見る目が育ってきたことや、様々な立場の人について考えることができるようになったという記述が多く見られた。また「お年寄りや困っている人の役に立ちたい」と思いやりの気もちが芽生えている記述も見られた。

(3) 取組の成果と課題

① 成果

これまであまり気にとめていなかったユニバーサルデザインが身近なところにもあることに気づき、関心をもって生活するようになった。また、様々な人の立場にたって調べたり考えたりしたことで、思いやりの気もちが育ってきた。

② 課題

調査の際に、実際に困っている方といっしょに調査するなど、生の言葉があれば更に深まりのある学習になったのではないかと考える。

5 平成21年度ユニバーサルデザイン教育推進校の取組事例 Ⅱ
伊万里市立伊万里中学校 3年生(21名)

(1) 取組のねらい

- ・ ユニバーサルデザインについて理解する。
- ・ 調べたことをもとに自分たちの生活を見直す。
- ・ 商品だけでなく、様々な人の立場にたって物事をとらえ、一人一人がユニバーサルデザインの心をもって生活していくことの大切さを知る。

(2) 取組の実際

自分たちが住んでいる町にも身近なところにユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮されたところがある。このことを生徒自身の体験や調査を通して実感させ、今後の町づくりにも生かせる学習にしていこうとねらいとしている。

「みんなが暮らしやすい町(伊万里)になるにはどうしたらいいか？」を考え今後の町づくりに生かしてもらうようにパンフレット等を作成することにした。

① ユニバーサルデザインについての調査活動

- ・ 図書室、伊万里市民図書館、インターネット等による調査
- ・ 嬉野高校生活福祉系列の出前講座
紙芝居、パワーポイントによるユニバーサルデザインの研修を受ける。
(シャンプーとリンスの違いやユニバーサルデザイン商品のはさみや皿の使い易さを実際に体験した。また、ピクトグラムのことを知った。)



② 他の人の立場になって、物事を考える

- ・ 駅や図書館、市民センター等へ行き点字ブロックがどの周辺まで整備されているか、その他、多くの人々が利用しやすく工夫されている所など調査。
- ・ 高齢者疑似体験を通して、高齢者の体験をする。
(階段の上り下り。ペットボトルのフタを開けコップに水を注ぐ。辞書を引く意味を調べる。新聞を読む。などさまざまな課題を与え高齢者の気持ちになって体験させた。ここではユニバーサルデザイン商品のペットボトルも使用)



- ・ 市内の視覚障害者の会が主催した「白い杖で街を歩こう会」に参加し、障害者との交流を図ると共に、バリアフリーなどについて考えた。



③ ユニバーサルデザインのアイデア作品制作やユニバーサルデザイン作文等によって、保護者や地域の方などに啓発活動をする。

- ・ 文化発表会を通して、作品を紹介する予定だったが、インフルエンザのため中止になりユニバーサルデザイン作品の啓発はできていない。午前中だけ開催した発表会では、個人のまとめたレポートを

掲示し、手話ソングをステージで発表した。

- ・ 佐賀県子どもユニバーサルデザイン作品コンクールに出展した。

(3) 取組の成果と課題

① 成果

- ・ ユニバーサルデザインをまったく知らなかった生徒たちが、ユニバーサルデザインの意味を理解し、身近なものをユニバーサルデザインの視点でみることができるようになった。
- ・ 福祉への関心が高まり、高齢者やさまざまな人たちの立場について理解が深まった。
- ・ 一人一人が思いやりの心をもって生活していかなければならないという意識が芽生えた。

② 課題

- ・ 自分たちの住む地域や学校など、色々な人の立場から考えたまちづくりの提案やユニバーサルデザインの啓発活動の工夫

6 平成21年度ユニバーサルデザイン教育推進校の取組事例 III 佐賀県立嬉野高等学校 総合学科社会福祉系列 3年(9名)

(1) 取組のねらい

本校は、平成18年度から誰もが住みやすい社会の実現を目指し、手作りの紙芝居等によるユニバーサルデザイン普及活動を行ってきた。総合学科社会福祉系列は、福祉専門職である介護福祉士を養成している。この活動を通して、人間性豊かな福祉専門職の育成と福祉援助の実践力、規範意識、倫理観などを育成する。

(2) 取組の実際

施設や物がユニバーサルデザインになっても「心のユニバーサルデザイン＝思いやり」がなければ、みんなが暮らしやすい町にはならない。「心のユニバーサルデザイン」の大切さをみんなに広めたいと考えている。

【主な活動】

- ・ ユニバーサルデザイン紙芝居
「みんなのヒーローUDマン」「ユードーまじょっ子」
(対象：幼稚園生、保育園生、小学校低学年)
- ・ ユニバーサルデザインかるた
「かるたでおぼえるユニバーサルデザイン」
(対象：小学生)
- ・ ユニバーサルデザイン紹介
「絵(パワーポイント)で見るユニバーサルデザイン」
(対象：中学生から一般)



小学生でも理解しやすいように、簡単な言葉や絵を用いて説明。



シャンプーにはほこぼがついていいることをさわって確認。



中学生もユニバーサルデザイン食器を体験。



いろいろなイベント会場でも活動。

(3) 取組の成果と課題

① 成果

活動を行った学校の生徒、保護者、教職員、一般の方々から好評を得た。

<感想文抜粋>

- ・ シャンプーに凸凹があって、リンスにはついていないとは知らなかった。家で見たら本当にあってびっくりした。(小学1年)
- ・ ユニバーサルデザインのかかるたはとても楽しかった。2年生の時に教えてもらっていたことを少し忘れていましたが、思い出せてよかった。(小学3年)
- ・ やっぱり、心のユニバーサルデザインは大切だと思った。バスでお年寄りと一緒にになったら席を替わりたい。(小学4年)

② 課題

もっと多くの人々にユニバーサルデザインを知ってもらい、誰もが暮らしやすい社会を実現するためにも、活動を毎年継続していきたい。

そして、小さい子どもの頃からユニバーサルデザインに親しんでもらうため、幼稚園や保育園、小学校を中心に活動を行いたいと考えている。

(参考)

このほかの平成21年度ユニバーサルデザイン教育推進校の取組は、佐賀県のホームページでご紹介しています。

http://www.pref.saga.lg.jp/web/kurashi/_1018/ik-genba/_1383.html
佐賀県庁ホームページ>くらしと教育>育児・教育>現場発の取組支援
>平成21年度ユニバーサルデザイン教育推進校の取組を紹介します
からもアクセスできます。